

プレスリリース

2025年11月14日
国境なき医師団（MSF）

地中海での難民・移民の搜索救助活動を再開—— 新船「オイボン号」が世界で最も危険な移民ルートへ

国境なき医師団（MSF）は 11 月 12 日、地中海で移民・難民の海難搜索救助の活動を再開すると発表した。昨年まで運航していた救助船ジオ・バレンツ号の活動が中止に追い込まれてから、ほぼ 1 年ぶりの再開となる。

地中海中央部で失われる命

中東やアフリカでの紛争や迫害、貧困から逃れるため、多くの人びとが欧州を目指し命がけで地中海の横断を試みている。しかし過密状態の小さなボートが転覆するなどして、海上で失われる命が後を絶たない。地中海中央部は、世界で最も危険な移民ルートの一つとされる。

MSF の新たな救助船であるオイボン号は、ノルウェー語で「島への希望」を意味し、以前はノルウェーで救急船として航行していた。この度、地中海中央部で搜索救助活動を行うために改修され、必要な機材が取り付けられた。

MSF で地中海の搜索救助活動の責任者を務めるファン・マティアス・ギルはこう話す。

「医療・人道援助団体として、移動を強いられた人びとを支援するという使命は揺るぎません。リビアの劣悪で非人道的な環境で拘束や虐待、搾取に耐えた末、小さなボートでの船出を余儀なくされ、海上で危機に陥った人びとがいます。私たちはそのような人たちの命を救うため、再び戻ってきたのです」

イタリア政府の政策が救助活動を妨害

MSF はイタリアの厳しい法律と政策の下で 2 年以上にわたりジオ・バレンツ号による救助活動を続けてきたが、2024 年 12 月、活動を停止せざるを得なくなった。救助活動にさまざまな制約を加える「ピアンテドージ令」や、下船地を遠方の港に指定されるといった制限により、活動が事実上不可能になったためだ。船は最大 700 人を収容可能であったにもかかわらず、わずか 50 人の救助者を乗せて遠隔港へ向かうよう命じられることが続いていた。

「MSF がより小型で高速の船を導入する決定は、搜索救助船を標的に制限や妨害を加えるイタリア政府の法律と慣行への戦略的な対応です」とギルは話す。

MSF は地中海中央部の活動を再開することで、リビアから逃れた人びとの体験を記録することも目指している。人びとはリビア沿岸警備隊などによる海上での暴力的な拿捕、さらに、イタリアの裁判所や国連機関が国際海事法、人権法、難民法への違反だとするリビアへの強制送還に遭っている。

この数カ月、地中海を横断する人びとや人道救助船へリビア沿岸警備隊やその他の武装勢力による暴力的な攻撃が増加している。

オイボン号には MSF の医師や看護師らが乗船し、命の危機にある人びとに医療を提供する。低体温症、燃料吸入、燃料によるやけど、さらにリビアでの虐待や拘束で負った傷の治療などを行う予定だ。

地中海での捜索救助活動

国際移住機関（IOM）によると、地中海中央部は依然として世界で最も危険な移民ルートの一つであり、2014 年以降、この海域で少なくとも 2 万 5630 人の男女および子どもが行方不明または死亡した。2024 年だけで 1810 人に上り、平均して 1 日 5 人が死亡したことを意味する。地中海を渡る人の数が減少傾向にあるにもかかわらず、2024 年には 2017 年以降 2 番目に多くの人が死亡した。

MSF は 2015 年以来、地中海中央部で捜索救助活動を行っており、単独または他の NGO と協力して 9 隻の異なる救助船を運航し、9 万 4200 人以上を救助してきた。

2023 年 1 月、「ピアンテドージ令」がイタリアで施行され、民間救助船にのみ適用される新たな規則と、違反時の制裁措置が導入された。制裁は、港での 10～20 日の拘留から船舶の没収にまで及ぶ。

この懲罰的なピアンテドージ令の施行以来、ジオ・バレンツ号は 4 回制裁を受け、合計 160 日間の拘留を強いられた。さらに、2022 年 12 月から 2024 年 12 月までの間、妨害的措置により、救助した人びとの下船のためにイタリア南部の近隣港ではなく北部の遠隔港へ向かうことを強いられ、追加で 6 万 4966 キロを航行し、163 日間余分に海上に在ることを余儀なくされた。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、高橋哲子

携帯：090-5401-5176

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X（旧ツイッター）アカウント：@MSFJ_Press